亀岡オーガニック農業スクール
農業団地のご紹介

株式会社ビオかめおか代表
亀岡オーガニック農業スクール校長
株式会社オーガニックnico代表
中村新

代表　中村新略歴

1982年　大阪大学基礎工学部卒業、オムロン株式会社にてセンサー関連のエンジニア

2006年　MOA自然農法大学校（静岡県伊豆の国市）にて1年間農業研修

2007年　南丹市日吉町にて新規就農

2010年　株式会社オーガニックnico　設立

2013年　京都市西京区大原野に移転

2026年　有機農業に関わる研究開発を行う「アグリサイエンス部門」を立ち上げ、データを活用した栽培技術を体系化

2024年　亀岡オーガニック農業スクール校長就任

2025年　亀岡オーガニック農業団地を立ち上げ

KAMEOKA organic farming school



亀岡オーガニック農業スクール

第四期生募集！

2027年2月入学

2026年8月～募集開始

×

亀岡市 KAMEOKA CITY

第一期講座
プロ養成コース：3組（5人）
スタディコース ：16組（21人）
オンラインコース：16名



第二期講座
プロ養成コース：4組（4人）
スタディコース ：13組（17人）
オンラインコース：11名



第三期講座
プロ養成コース：2組（3人）
スタディコース ：17組（26人）
オンラインコース：10名



スクールカリキュラム

生きた知識を学ぶ

座学

「有機農業とは何か」から始まり、作物の成長制御、土づくり、病害虫対策などの有機農業特有の技術について、さらには社会と有機農業、農業経営など幅広い領域を体系的に学びます。





プロ農家が教える

実習

プロの有機農家が土づくりや病害虫の制御まで、実際に営農現場で使っている技術を丁寧に指導します。実習に参加できなかった方やオンラインコースの方向けに、実習風景を撮影した動画も提供します。



選べる3コース

半農半X、有機の家庭菜園を叶える スタディコース

定員　20名

受講料　税込 38万円
※選択科目を取られない方は 36万円

受講期間　2027年2月～2028年1月

コース内容
- 隔週土曜日の共通座学・スクール圃場での共通実習
- より専門的な選択座学※
  ※農業経営などのより専門的な内容

事務局メッセージ

当スクールのメインコースです。受講生たちは回を重ねるごとに仲良くなっていきます。久しぶりの「学生気分」が味わえます。

座学カリキュラム

- 共通基礎講座　必修：90分×21回
  選択：90分×7回

卒業1年目からの就農を叶える プロ養成コース

定員　6名

受講料　税込 60万円

受講期間　2027年2月～2028年1月

応募資格
- 農業あるいは本格的な家庭菜園など、ある程度の経験と知識をお持ちの方
  ※応募後、合格・不合格を決める面接があります

コース内容
- 隔週土曜日の共通座学・スクール圃場での共通実習
- プロコース専門座学・プロコース圃場での実習
- 有機JAS取得農家での週2～4日実習

共通基礎講座＋専門座学16回

時間に縛られず学びたい！を叶える オンラインコース

定員　60名程度

受講料　税込 17万円
※選択科目を取られない方は 15万円

配信期間　入学から1年間

コース内容
- 隔週土曜日の共通座学
- より専門的な選択座学※
  ※農業経営などのより専門的な内容

事務局メッセージ

オンラインで有機栽培を基礎から専門的な内容まで体系的に学べる講座です。現地参加できるオプション講座も用意しています。

座学カリキュラム

- 共通基礎講座　必修：90分×21回
  選択：90分×7回

受講生の推移と内訳

コース種別	第１期	第２期	第３期（今期）
プロ養成コース	３組(５名)	４組（４名）	２組（３名）
スタディコース	１６組(２１名)	１３組(１７名)	１７組(２６名)
計	１９組(２６名)	１７組(２１名)	１９組(２９名)
（内、市内在住）	（６組）	（３組）	（１０組）
オンラインコース	１６名	１１名	１０名
受講料収入	9,960,000円	8,750,000円	9,068,000円

受講生の卒業後の動向

【第１期卒業生】

・２組が亀岡オーガニック農業団地にて就農中。

・１組が亀岡市内で就農中。

計３組（これ以外に半農半Ｘが２人）

・亀岡市外から移住者１組。

【第２期卒業生】

・４組が亀岡オーガニック農業団地にて就農スタート。

・１組が南丹市で就農スタート。

計５組。

・亀岡市外から移住者２組。

以上、８組がプロ農家として新規就農開始。

うち７組が亀岡オーガニック農業団地の仕組みを利用し、うち2組が有機ＪＡＳ認定取得済み。

実習圃場の様子







スクール事業の課題

①収益性の確保

・プロ養成コースとスタディコースは実習圃場の広さ及び栽培指導体制に限界があるため合計２０組程度が適正定員であります。

・事業としての収益性を確保するためには、オンラインコースの増加を目指す必要があり、オンラインコースの内容及び募集方法を検討する必要があります。

②卒業生受け入れ体制

・現状、地元旭町・千歳町の自治会及び営農組合の関係者の皆さまは当事業の趣旨を認め、農地確保等の支援に対応して頂いている。

・今後は農地だけでなく居住を含めた農住連携の活動を地元の方々と進める必要がある。

亀岡オーガニック農業団地
～スクール卒業生（農業団地利用者）のサポート～

1. 農地紹介
   - 農地は一旦所有者から㈱ビオかめおかが賃貸を行い、農業団地利用者に対して「特定農作業受委託契約」を交わし作業委託。
   - 将来的には地主と本人との直接の契約に変更していく。
2. 農機具レンタル、作業場の提供（共同出荷場、保冷庫、農機具等の利用）
   - ㈱プラスソーシャルインベストメントが組成したファンドにより６２０万円を資金調達

   保冷庫、出荷作業場場、農機購入などにあてた
3. 農作物の買取、販路紹介
   - じゃがいも、たまねぎ、にんじんは全量、その他京野菜を中心に作付け計画にて合意したものを全量買い取りし、産地形成を図る。
   - 2026年２月よりオーガニック給食用として出荷スタート。
   - 地元の直売所「なごみの里」等に出荷
   - その他、オーガニックnicoを通じて関西圏を中心に広く販売を行う

農業団地の現況

- 農地
  - 亀岡市旭町内に12筆、隣接の千歳町と河原林町に10筆　計3.4ha
- 就農者
  - 第1期卒業生が２組＋半農半Xで2組　←農地の約半分が有機JAS取得済
  - 第2期卒業生が４組、南丹市（農産物販売のみ団地利用）1組
- 亀岡市外からの移住者
  - 第1期卒業生が1組、第2期が2組
- 保有設備
  - トラクター、芋ほり・肥料散布など各種アタッチメント
  - ハンマーナイフモア、ウイングモア、管理機、動力噴霧機、播種機
  - 出荷作業用パイプハウス、保冷庫（2坪）

団地事業の課題

- 現状保有の保冷庫が狭く、農業団地利用者の増加に対応して大きな出荷場・保冷庫が必要。まずはそのための用地確保が必要であります。
- 将来的には亀岡市のオーガニック産地化構想の進捗に伴い、亀岡市にて整備を行う予定である集荷施設等を利用していく。
- 継続的な運用と拡大、産地形成を民間主導で行うには限界があり、地域も巻き込み、移住政策と合わせて行政の関わりを増やしていく必要があります。